



岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

令和3年度 校内研究テーマ

新しい時代の「働く力」の組織的理解と育成・実践の充実

～専門教科・寄宿舎生活を通じた取り組みから～

(1 年次研究)

1 研究テーマについて

新学習指導要領では、特別支援学校高等部学習指導要領の改訂のポイントとして「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質能力を身につけていくことができるよう、家庭や地域、関係機関との連携を図りながら、キャリア教育の充実を図ること」が挙げられている。

本校は、県内唯一の専門学科のみの高等支援学校として、キャリア教育を推進し、就労と一人一人の生活や生涯を見通した進路実現を目指してきた。平成 25 年度の研究では本校としての「キャリアプランニング・マトリックス」をまとめ、平成 30 年度からの 3 年次研究では、新学習指導要領に即した単元（題材）の検討と、学習と評価の充実を目的とした評価規準表の作成を行った。

平成 21 年度の学科改変で、専門学科（1 学年）、生活科学科、農産技術科、加工生産科、流通・サービス科が編成され、現在に至っているが、めまぐるしく変化する社会の中で、本校に求められる社会的ニーズも変化してきおり、これまで培ってきた本校の職業教育の実績を基盤として、新しい時代のニーズを踏まえた本校で育成すべき資質・能力を再度確認し、共有することが求められている。

昨年度行われた学校づくりワークショップや研究の中で、専門教科は本校の特色の一つであり、強みでも弱みでもあるということが挙げられたことから、本校職員の専門教科に対する意識の高さがうかがえる。しかし、一方で所属以外の専門教科については理解が進んでいないという現状も挙げられている。そこで今年度は、専門教科を切り口に「働く力」について取り上げ、現代社会で「生き・働く」ことを見据えた指導を共通の目的をもって推進していきたいと考える。

2 研究の内容・方法

- 1 教育目標等より本校のめざす生徒像や育成すべき資質・能力の要素を整理し「働く力」についての本校としての定義を職員間で共有する。
- 2 専門教科間の連携を図り、「働く力」を育成するための共通の取り組みを推進する。
- 3 企業連携、地域社会とつながる教育活動の在り方を検討する。
- 4 「働く力」を育てる授業実践や手だて（ICT 活用含む）を検討する。
- 5 研修、視察等により先行事例について情報を収集し、「働く力」についての共通理解や授業実践の一助とする。

3 期待される研究の成果

- 本校で育成すべき資質・能力を整理し、「働く力」の定義を職員間で共有することで、「働く力を育成する指導」がより具体化され実践される。
- 専門教科間の連携を図り、「働く力」を育成するための共通の取り組みを推進することで、体系的な学習が実践される。
- 専門教科をとおして行われてきた企業連携や交流活動等、社会とのつながりについて検証することで、これからの開かれた学校の在り方について具体的なビジョンが共有される。